



間違いだらけの医療費節約

花粉症の薬代を減らす裏ワザ



まずは薬代が安いジェネリックがおすすめです

市販薬にもあるジェネリック

安く抑える方法はあるのかな



毎年、花粉症の時期は薬代がかかるんだよね



市販薬にもジェネリックがある！

ジェネリックというと、病院で処方される薬のイメージがありますが、市販薬でもジェネリック医薬品があります。ドラッグストアの店頭や通販サイトで確認してみるとよいでしょう。

花粉症のジェネリック市販薬の例

※青字は市販薬の先発医薬品、黒字はジェネリック。

アレグラFX/28錠(約2,000円)

- フェキソフェナジン錠AG/28錠(約1,200円)
- アレルビ/28錠(約1,000円)

★アレジオン20/24錠(約2,400円)

- ナブシオン20/30錠(約2,000円)
- ポジナールEP/20錠(約1,800円)

★クラリチンEX/28錠(約2,200円)

- ロラタジンAG/30錠(約1,100円)
- ロラタックス錠/40錠(約1,100円)

※金額は参考価格です。

★のついている薬は、ジェネリックでも1日1回の服用でOK!

※年間12,000円を超える対象のOTC医薬品を購入した場合、その超過分の金額について所得控除を受けられる制度(控除額の上限は88,000円)。医療費控除との併用不可。2026年12月31日までの特例。

最近では、病院で処方される医療用と同じ成分を含む花粉症薬(スイッチOTC薬)が、ドラッグストア等で販売されています。眠気等の副作用が少ないものなど種類も豊富で、忙しくて病院に行けない人や症状が軽い人などにおすすめです。購入するときは薬剤師に相談し、自分の症状やライフスタイルに合ったものを選びましょう。

また、市販薬にもジェネリック医薬品が登場(左のコラム参照)し、薬代の負担を減らすことも可能になっています。スイッチOTC薬は※セルフメディケーション税制の対象になっていますので税制上のメリットもあります。

市販薬(スイッチOTC薬)を上手に使う

病院での医療費を減らすには？

- 1 薬をジェネリックにする
薬代そのものが安くなるだけでなく、先発医薬品にかかる特別料金を負担しなくて済みます。
- 2 長期処方してもらい、通院回数を減らす
- 3 リフィル処方せん※を発行してもらい、通院回数を減らす

※最大3回まで繰り返し利用可能な処方せん。

※①～③とも薬の種類や症状によってはできない場合があります。

症状が重い人、市販薬では症状が改善しない人、妊娠中や既往症で薬の使用に注意が必要な人などは、医療機関を受診しましょう。病院での薬代等の負担を減らすには、次のような方法があります。まずは医師に相談してみましょう。

病院にかかるときは、ジェネリック&長期処方

